

震災発生から10年8か月 亡くなった息子の誕生日祝う

11月11日 17時26分



東日本大震災の発生から、11月11日で10年8か月です。石巻市では、多くの児童が犠牲になった大川小学校に通っていた長男を含む、3人の子どもを亡くした両親が祈りをささげるとともに、12日に迎えるはずだった長男の23歳の誕生日を祝いました。

石巻市の今野浩行さん（59）と妻のひとみさん（51）は、10年前の津波でいずれも当時、高校生だった長女の麻里さんと次女の理加さん、それに小学6年生だった長男の大輔さんを亡くしました。

大輔さんは、児童と教職員あわせて84人が犠牲となった市内の大川小学校に通っていて、浩行さんは、真相の究明などを求めて学校側を訴え、勝訴した裁判の原告団長を務めました。

震災の発生から10年8か月となった11日、今野さん夫婦は、去年、ほかの遺族と共同で建てた永代供養の墓を訪れ、祈りをささげました。

浩行さんは「親として助けてやれず、申し訳なかったとしか言えないです。子どもたちのことを毎日考えているので、何年たっても気持ちは変わりません」と話しました。

また、ひとみさんは、「“安らかに眠ってね”と伝えました。10年以上が経って、子どもたちのことが忘れられるのではと思うと、少しさみしいです」と話しました。

今野さん夫婦は、震災後も毎年、子どもたちの誕生日にあわせてプレゼントを用意していて、11月12日は大輔さんの誕生日です。

20歳の時には成人式用のスーツを、その翌年には革靴を贈りました。

23歳になるはずだった、ことしは、大輔さんが好きだった漫画の本をプレゼントとして用意し、ひとみさんが、ハンバーグとミートスパゲティを作って仏壇に供えました。

ひとみさんは、「亡くなったことを受け入れられずに、大人になった姿にあわせたプレゼントを贈ったこともありましたが、ことしは小学生の息子が好きだった漫画を選びました。これからもお祝いは続けますが、夫婦2人で子どもたちと行きたかった場所を訪れてみたいし、子どもたちには“お父さんにはお母さんがいるから大丈夫”と伝えたい」と話していました。